

新得町農業協同組合（北海道新得町）

組織の概要

- 令和6年2月末現在の正組合員数は135名、准組合員数は476名
- 高齢化等に伴う農家戸数の減少など課題はあるものの、地域の農業振興方針を定めた第8次農業振興計画（令和2年度～令和6年度）に基づく「生産支援体制の機能強化及び拡充」、「人材確保」及び「地域農業の魅力発信」を重点基本方針とし、安全・安心で高品質な農畜産物の生産体制の確立及び生産向上による農業所得の確保を目標に据え、各種営農サポートによる麦・大豆の収益性等の向上に取り組んでいる。

生産概要

■【R5年 作付面積】

小麦 434ha、てん菜 157ha、馬鈴薯 138ha、豆類 339ha、そば 335ha など

- J A管内では小麦・大豆ともに播種前契約による契約販売を実施しており、生産者は需要に応じた生産が求められている。生産性や収益性をより向上させるためには、昨今の肥料・農薬等の高騰や異常気象に対し、各関係機関の知見を集約した新たな栽培体系の構築が必要である。



小麦収穫の様子

取組のポイント

< 麦種に応じた最適な施肥の実施 >

- 衛星画像を活用した追肥を実施し、生産コストの減少に加え、各麦種において、ほ場内の生育格差に応じた施肥体系を確立することにより作業負担軽減及び収益性向上を図った。

< スマート農業技術を活用した生産の高度化・省力化 >

- 衛星リモートセンシングデータを活用した可変施肥技術の導入により作業負担軽減及び収益性向上を図った。



講習会の様子

< 生産における課題と今後の取組 >

- 農家戸数の減少による生産者ひとり当たりの作付面積の増加や労働力不足に対応するため、衛星データなどを活用した営農技術の活用が急務である。作付面積が増加し作業負担が増大することによる生産性の減少を避けるため、各種データを活用した営農技術やスマート農業の取り組みを継続的に実施することにより産地全体の単収増加等を目標とする。

取組成果

< 小麦：単収の増加 > ■ 498kg/10a(R4)→**689kg/10a(R5)**→621kg/10a(R8目標)

< 大豆：作付面積の拡大 > ■ 142.7ha(R4)→**171.6ha(R5)**→169.6ha(R7目標)

